

文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業（新学習指導要領に向けた実践研究）」

令和元年度 実践報告 2年次

特別支援学校における教科等の学習への図書館 機能の活用と読書活動の充実に関する研究



群馬大学教育学部附属特別支援学校

まえがき

群馬大学教育学部附属特別支援学校では、文部科学省からの委託事業「特別支援教育に関する実践研究充実事業（新学習指導要領に向けた実践研究）」に取り組んでいます。特別支援学校における図書館機能の利活用や読書活動の推進が、具体的な柱です。

附属小学校と図書館を共用している本校ではかねてより、小学校のご協力をいただきながら読み聞かせなど様々な活動をしてきました。本事業ではこれをさらに進め、図書館機能を積極的・計画的に活用して授業づくりを試みています。

今年度は、例えば絵本を使った調べ学習を前提に多様な活動を行うなど、この試みをさらに深化させることにチャレンジしました。本報告書をご覧ください、ご意見をいただければ幸いです。

研究協力者、本校職員の視察を受け入れてくださった方々、附属小学校等、ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

群馬大学教育学部附属特別支援学校長 藤森健太郎



目次



まえがき

1	目次	1
2	実践研究の概要について	2～3
3	今年度の授業実践	
	(1) 国語科	
	① 「よんでみつけよう」	5～7
	② 「読んでひみつを見つけよう」	8～10
	③ 「読んで調べてみつけよう」	11～13
	(2) 算数科	
	④ 「くらべて みつけよう」	14～16
	(3) 音楽科	
	⑤ 「思いをのせて 夏のミニコンサート」	17～19
	(4) 図画工作科・美術科	
	⑥ 「つくって かざろう」	20～22
	⑦ 「あったらいいな こんなお店」	23～25
	⑧ 「こだわってつくろう」	26～28
	(5) 保健体育科	
	⑨ 「バスケットボール」「オリンピックについて調べよう」	29～31
	(6) 生活単元学習	
	⑩ 「『ぐりとぐら』のげきをしよう」	32～35
	⑪ 「しらべて みつけて つくってみよう」	36～39
4	授業実践以外の取組	
	(1) 読書環境について	41～42
	(2) 「読書カード」について	43～44
	(3) アンケート調査とその考察	45～46
5	実践を振り返って	47～48

あとがき

2 実践研究の概要について

1 1年次の取組について

1年次は、校舎を共有する附属小学校の図書館担当職員と連携を図り、児童生徒の興味や関心、実態や授業内容等について連絡・相談を行うことで、読書環境や教材の充実を図るようにしました。以下がその成果です。

- (1) 児童生徒の学習活動の充実のために、附属小学校の図書館担当職員と、授業のねらいや、扱いたい本について相談し、本を紹介してもらったり、一緒に選んだりするなど、連携することができた。
- (2) 児童生徒の具体的な姿とその変容から、授業をする上で、読書活動を取り入れたり、図書館を利活用したりすることの良さを確かめた。
- (3) 読書活動を授業に取り入れたり、図書館を利活用したりする際に、書画カメラやタブレット端末などのICT機器を活用したり、自作教材を用いたりするなどの工夫について見出した。
- (4) 児童生徒の日常的な読書を促すために、授業実践と関連して、「読書環境」の充実を図ることの大切さがわかってきた。



一方で、年間をとおして、組織的、継続的に児童生徒の言語能力を育成するために、授業実践を積み重ねていくことや、児童生徒の読書実態を含めて、どのような力が身についたかを評価することへの課題も挙がりました。

そこで、2年次である今年度は、以下の4点について取り組むこととしました。

- (1) 国語科を中心とした各教科の授業において、図書館の利活用や読書活動を取り入れること（1年次からの継続・発展）
- (2) 読書環境の充実を図ること（1年次からの継続・発展）
- (3) 「読書カード」の活用により、児童生徒の読書実態を捉えること
- (4) アンケート調査を行い、特別支援学校等における、図書館の利活用の状況や読書活動についての現状を捉えること

(1)、(2)については、1年次からの継続・発展ということで、読書活動や図書館の利活用を取り入れた授業実践を様々な教科で行ったり、年間をとおして実施したりしていくことに重点を置きました。また(3)、(4)については、2年次より新たに取り組むこととしました。特に(3)については、昨年度の先進校視察の内容や、本校での実践での課題を受け、行っていくこととしました。

次ページより、こうした取組やその成果について実践を基に紹介していきます。

3

今年度の
授業実践



(1) 国語科

授業実践① 小学部 「よんでみつけよう」

1 実践の概要

本実践は、小学部1年生3名、2年生3名の計6名で授業を行いました。

言葉の意味を捉えることをねらいとし、単語や文とイラストを一致させたり、イラストから言葉をイメージしたりすることに取り組みました。

お気に入りの絵本を言葉やイラストを手掛かりに、言葉を書き入れたり、挿絵を貼ったりして、自分の「絵本」を作り、友だちに読んで発表しました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

普段から、6名の児童は絵本に興味を持ち、学級に置いてある絵本を開いて見たり、読んだりしています。また、定期的に図書館を訪れ、本を借りています。このような点から、児童が自然に、そして意欲的に取り組むことができると考え、言葉の意味を捉える学習において、読書活動を取り入れることとしました。

(2) 扱った本(図書)について

普段の児童の読書の様子から、興味や関心を持っている絵本を基にしつつ、展開のわかりやすさや、擬音語や擬態語を用いた描写など、個々の学習のねらいや目標に沿って使用図書を選定しました。

使用図書	選書の理由
しろくまちゃんのほっとけーき	<ul style="list-style-type: none">・ホットケーキが完成するまでの過程や展開が視覚的にも捉えやすい。・擬音語や擬態語がよく出てくる。
だるまさんが	<ul style="list-style-type: none">・動作化がしやすく、関心が高まる。・擬音語や擬態語が多く出てくる。
おつきさまなみてる	<ul style="list-style-type: none">・「おつきさまなみてる」というフレーズが繰り返し出てくることで、言葉やイラストに着目しやすい。・動きや描写が捉えやすい
こぐまちゃんおはよう	<ul style="list-style-type: none">・こぐまちゃんの1日の生活が描かれており、言葉やイラストから内容を想起しやすい。

3 教材や支援について

(1) 挿絵の活用

- 挿絵のコピーを作成し、ボードに貼り付け、挿絵を選んだり操作したりできるようにして「挿絵合わせクイズ」(アニメーションをモチーフにした活動)を行いました。児童が言葉から挿絵や場面を連想したり、イラストから言葉を思い浮かべたりできるようにしました。



挿絵のコピーの例(左)と場面に合う挿絵を選ぶ様子(右)

(2) 読み聞かせと動作化

- 授業の始めには、挿絵がよく見えるように示しながら読み聞かせを行い、挿絵や場面を真似て、同じ姿勢やポーズを取ったり、絵本中の言葉からイメージした動きを表現したりするなど動作化を行いました。



動作化しながら読み聞かせを聞く様子

4 授業の様子

単元の前半は、読み聞かせと動作化、「挿絵合わせクイズ」を行いました。どの児童も全身を使って動きを真似たり、読み聞かせと同じページの挿絵を選んだりする様子が見られました。



挿絵を真似て動作化をする様子



同じ挿絵を選ぶ様子

1年生のAさんは、挿絵に注目しながら読み聞かせを聞き、挿絵を正しく選ぶ姿がありました。また、自分から『あ、われちゃった』はこれ」と絵本に出てきたフレーズをつぶやきながら選ぶ様子も見られました。



フレーズをつぶやきながら挿絵を選ぶAさん

単元の後半は、挿絵を用いて、自分だけの絵本づくりを行いました。これまでの学習活動を生かし、それぞれの児童が、絵本に出てくる言葉やフレーズを思い浮かべて並べたり、並べた言葉に合わせて、挿絵を選んで貼り付けたりして、自分の「絵本」を作ることができました。



挿絵を選んで貼り付ける



完成した絵本を読む



フレーズを選んで貼り付ける

2年生のBくんは、挿絵や場面絵から、言葉をあてはめて絵本を作りました。

時折、『きんぎょちゃんあさごはんですよ』などと絵本のフレーズを挿絵から連想しながら、挿絵に合った言葉や文を選んで貼り付けて完成させました。その後の発表では、作ったページを開いて友だちに見せながら、読み聞かせができました。

5 実践をふりかえって

実践をとおした児童の姿や変容から、次のようなことを振り返りました。

- 児童が笑顔で楽しそうに学習活動に取り組む姿から、絵本を使った学習や、読み聞かせやアニメーションなどの読書活動を取り入れたことは、児童が言葉の意味を捉える上で効果を感じました。
- 授業後は、授業で扱った本を手に取り、挿絵を指さしながら文を読む姿が見られ、読書をより楽しむようになったと感じています。
- 児童の実態として難しかったかもしれませんが、本の内容により目を向けるような発問「どうして（卵は）割れちゃったんだろうね」「この後こぐまちゃんはどうしたのかな」などができると、児童が想像しながら本を読むことや、本を読む楽しさにもつながるのではないかと振り返りました。

(1) 国語科

授業実践② 中学部 「読んでひみつを見つけよう」

1 実践の概要

本実践は、中学部3年生5名で授業を行いました。生徒たちが、文中の言葉や挿絵に着目して、場面の様子や登場人物の心情を捉えながら読むことをねらいとしました。

授業では、着目した言葉や挿絵に印を付けたり、場面を動作化した後に登場人物の気持ちについて話し合ったりして、生徒たちで内容を共有しながら物語を読みました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

本学習集団は、「言葉や挿絵から場面の様子を捉えること」に課題がありました。そこで、生徒たち同士で内容を共有したり、感じたことを伝え合ったりしながら本を読むことで、より多くの言葉や心情の捉え方を学習することができると考えました。

(2) 扱った本（図書）について

本単元では、「どうする？ティリー」や「スイミー」などのレオ・レオニのシリーズを使用図書としました。

5名の生徒は、挿絵から内容を捉える生徒、平仮名を指で追いながら文章を読む生徒、自分で文章を読み進めてあらすじを捉えることができる生徒など、実態は様々でした。

そこで、内容を捉えやすい挿絵、小学校低学年程度の読みやすい文章、登場人物が同一のシリーズになっていて並行読書につながるような図書を選書しました。

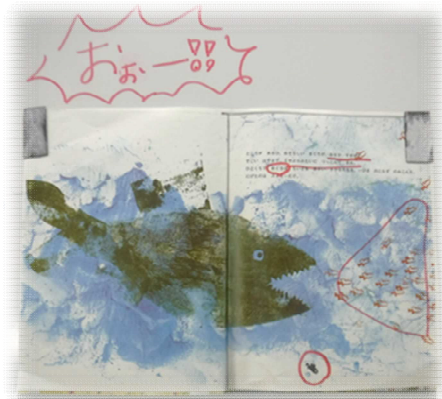


使用図書	選書の理由
「どうする？ティリー」	・インパクトのある挿絵で、主人公の行動や場面の変化を捉えることができる。
「スイミー」	・主人公に着目することで、心情の変化を捉えることができる。

3 教材や支援について

(1) 着目した挿絵や言葉に印を付けながら読む

本の見開きページをカラーコピーし、主人公の行動や気持ちを表す言葉に直接印を付けられるようにしました。また、感想や気付いたことを書き込んだページをホワイトボードに並べて掲示することで、場面の展開が一目でわかりやすくなるようにしました。



主人公のスイミーに印を付けながら読む



ページを並べて場面の展開を示す

(2) 場面の動作化

大きなマグロから逃げる場面、ひとりぼっちで泳ぐ場面、小さな赤い魚たちと協力してみんなで泳ぐ場面などを、登場人物になりきって動作化するようにしました。



場面を動作化する

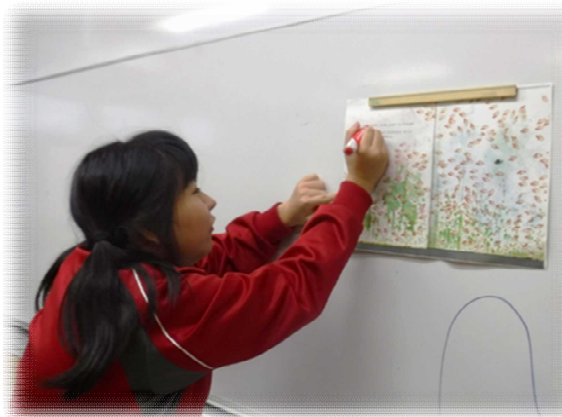
4 授業の様子

着目した挿絵や言葉を基に、場面の様子を捉えて動作化しました。こうすることで、「どうする？ティリー」の中で、主人公が探検する場面を動作化して表した際には、「『探検』だからときどきしながら歩いたと思うな」などと、気付いたことを友だちと伝え合ったり、登場人物になりきって感じた感想を伝え合ったりする姿が見られるようになりました。



場面の様子を動作化して捉える

また別の絵本の読み取りを行った際には、主人公を表す「スイミー」の言葉を探しながら、ページのコピーに印をつけました。そしてそこから、主人公スイミーが何をしたのか、読み取った行動や場면을動作化して再現するようにしました。すると、大きなマグロを追い出す場面を再現した際には、生徒から自然と、「もっと速く泳ごうよ!」「みんな離れないでね」などと、感じたことを伝え合ったり、「この場面でスイミーはみんなをまとめたんだね!」と主人公になったつもりで、場面を読み取る様子が見られました。



注目する言葉に印を付ける



動作化したり、様子を見合ったりする

5 実践をふりかえって

本実践について、生徒の姿から以下のように振り返りました。

- 見開きページに気付いたことを直接書き込めるようにすることで、文章中の「誰が」「何をした」などの様子を表す言葉や、心情を表す言葉に着目し、内容と挿絵と一致させながら読むことができました。
- 動作化することで、「大きな魚を追い出せて嬉しいね!」のように様子や心情について気付いたことを積極的に伝え合うようになり、友だちの意見を聞いて、情景をより豊かに想像することができました。
- 今後、生徒自身が自分で読む力を伸ばしていくため、文字から内容を捉えるだけでなく、マルチメディアデイジー図書などの音声教材も活用していけるとよいと考えます。

(1) 国語科

授業実践③ 高等部 「読んで調べて見つけよう」

1 実践の概要

本実践は、高等部1年生6名の学習集団で授業を行いました。

叙述や挿絵を手掛かりに、場面の移り変わりや登場人物の心情の変化を捉えることをねらいとし、生徒が本を読んで、読み取ったことをクイズにして出題したり、絵本の内容から読み取ったことを友だちに紹介したりしました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

6名の生徒の実態から、動詞や形容詞に着目して登場人物の行動等を読み取ることや、「誰がどうした」のような、主述の関係で文を書くことに課題がありました。そこで、絵本などを用いることで、挿絵を手掛かりとしながら場面の变化や登場人物の行動を捉えつつ、そうした変化を叙述と関連付けながら読みだりすることにつながると考えました。

(2) 扱った本(図書)について

普段の生徒の休み時間における読書の様子から、写真や挿絵を中心に情報を得ている姿を確かめました。しかし、高校生という発達段階を考慮し、叙述の多さや、話の内容等にも目を向け、以下の本を選びました。

使用図書	選書の理由
ずーっとずっとだいすきだよ	• 話の展開が捉えやすく、男の子と愛犬エルフィーの行動や時間の経過が叙述によって細かく表現されており、内容の読み取りに適していると考えた。
けんかのきもち	• 主人公の気持ちの変化について叙述されており、場面の移り変わりと共に、読み取ることができると考えたため。
ぐりとぐらのえんそく	• 場面の移り変わりが挿絵によって捉えやすく、なぜそうなったか、前後の関係についてもわかりやすいと考えたため。
おべんとどうぞ	• 「誰が何をした」という主述の関係が捉えやすい内容であると考えた。

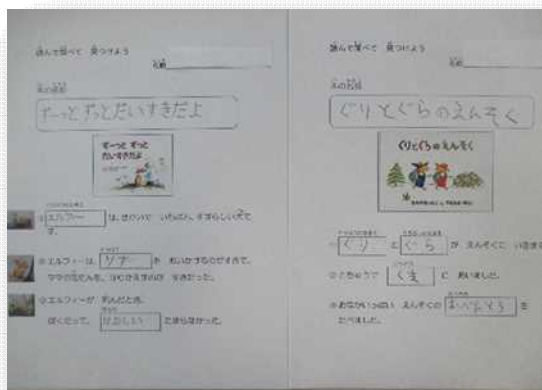
3 教材や支援について

(1) ワークシートの作成

挿絵の一部を貼り付けたり、叙述を基に挿絵に合うように単語や文を書き込むための欄を設けたりしたワークシートを作成し、本の内容を読み取ることができるようになりました。

生徒によっては、挿絵を並び替えて貼り付けるようにしたり、気持ちを表すイラストを選んだりできるようにしました。

こうすることで、主述の関係や、時間や場面の移り変わり等を正確に読み取ることができるようになりました。



使用したワークシート



挿絵に合う単語や文を書き込む

(2) ICT機器の活用

書画カメラを活用し、読み聞かせの際に、挿絵を大型テレビの画面に大きく映しました。また、本の紹介の際にも紹介する場面やワークシートをテレビの画面に拡大して示すことで、関心を高めながら、内容を読み取る姿が見られました。



画面を見て気付いたことを伝え合う



読み取った事柄を伝える

4 授業の様子

Cさんは、挿絵を手掛かりにしながら、登場人物の行動を読み取り、叙述と挿絵を結びつけて、「誰がどうした」という内容を読み取ることができました。単元実施前と比較して、挿絵だけでなく、叙述にも着目して内容を読み取る姿が増えました。



登場人物の行動を読み取る



関連した叙述や挿絵を伝える

Dさんは、挿絵と関連する叙述を見つけ、場面や登場人物の行動について詳しく読み取ることができました。また、単元の終盤には、叙述を根拠にして、登場人物の気持ちの変化について、理由を添えながら友だちに紹介することができました。

5 実践をふりかえって

実践をとおして、次のようなことを振り返りました。

- 絵本を用いて学習活動を展開することで、挿絵を手掛かりとしたり、挿絵と叙述のつながりをすぐに確かめたりできることから、国語科のねらいや授業のねらいを達成するために有効だと感じました。
- その一方で、「読むこと」の力を伸ばしたり、国語科の知識及び技能を高めたりするために、絵本だけでなく、挿絵の少ない本を用いたり、オリジナルの教材として工夫したりする必要性も感じました。そういった意味では、図書や読書活動を単元の中で取り入れるだけでなく、そうした本をベースにアレンジしたり工夫したりして、より生徒の学びに即して教材化していくことも必要であったと振り返りました。

(2) 算数科

授業実践④ 小学部 「くらべて みつけよう」

1 実践の概要

本実践は、小学部5年生2名、6年生2名の計4名で授業を行いました。

長さを比べ、より長い方を判断したり、長さについての特徴を知ったりすることをねらいとしました。そこで、粘土を長く伸ばしたりつなげたりする活動や、棒や紙テープの長さを比べる活動を展開しました。

2 実践研究にかかわって

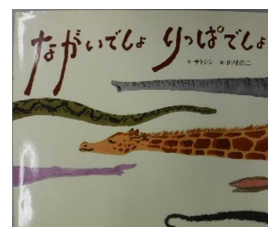
(1) 読書活動を取り入れた目的

本単元において、「長さ」を扱うにあたって、4名の児童の実態を捉えた際に、「長さ」について、児童がイメージしたり、学習の見通しを持ったりできるようにする必要性を確かめました。そこで、長さを身近に感じたり、長さを扱うことに対する興味や関心を高めたりするために、単元や1単位時間の導入の場面で、長さを題材にした絵本の読み聞かせを行うこととしました。

(2) 扱った本（図書）について

以下の点を重視して、本を選びました。

- ・「ながい」など授業で扱いたい言葉が多く登場すること。
- ・児童が題材に親しみを持てるように、ストーリー性があること。
- ・挿絵などにより、「長さ」という概念を児童が視覚的に捉えやすいもの。



使用図書	選書の理由
ながいいぬのかいかた	・胴が長い犬を飼うときに気を付けることをおもしろおかしく書いてある本。長いことで良いことや困ったことがかかれており、児童が興味や関心を持ちやすいと考えた。
ながいでしょ りっぱでしょ	・ぞうの鼻やきりんの首など、色々な動物の長い部分を紹介している本。 ・動物園などで見たことのあるような、身近な動物が登場し、長さを自分の知っているものと関連づけられると考えた。

3 教材や支援について

(1) 読み聞かせの実施

- 単元の導入段階や授業の導入部において読み聞かせを行い、挿絵に着目するように言葉をかけながら読んだり、「長さ」を感じることができるように、挿絵を指でなぞったりしました。



読み聞かせを行う

(2) 絵本と教材

- 絵本に登場する動物と同じ動物で、自作の仕掛け紙芝居を作成しました。仕掛けを操作することをおして、「長い」という概念の理解を深められるようにしました。



仕掛けを操作する様子

4 授業の様子

単元の導入では、絵本と同じ動物を扱った自作の仕掛け紙芝居を用いました。「ながーくなあれ」と言いながら、キリンの首を長くしたり、ゾウの鼻を長くしたりして、長さを視覚だけでなく、操作しながら捉えられるようにしました。

また、こうした活動は、別の場面での、粘土をより長くしたり、棒を何本もつなげてたりして、友だちと長さを比べる活動につながり、児童の「もっと長くしたい」という意欲になりました。



長く棒をつなげる様子

6年生のEさんは、棒をつなげて、友だちと長さを比べた際、より長くしようとして、より長くなる組み合わせになるように棒を選んだりする姿が見られました。自分の棒が一番長かった際には、笑顔になり、喜ぶ様子が見られました。

5 実践をふりかえって

今回の実践をとおして、次のようなことを振り返りました。

- どの概念を使って考えるかが大切な算数科の教科の特性から、概念を児童がイメージしやすくするために、挿絵やストーリー性があり、児童にとって身近な絵本を使ったことは有効であると感じました。特に、単元や授業の導入部において、「長さ」や「高さ」「広さ」などの概念のイメージを強く持てるようにしたことは、主活動での知識の獲得や、思考する姿につながりました。
- 一方で、ミニカーを走らせ、その走った長さを比べた際に、「こっちの方が速い」という比べ方をした児童がいました。授業で扱いたい概念をどのように押さえていくか、絵本などの活用に加えて、単元の計画などを工夫する必要があると感じました。同時に、「速い」「遅い」の学習につながる付随的効果として捉え、次の学習に生かしたいと考えました。
- 読み聞かせをする本を準備する際に、昨年度までと同じように、図書館担当職員の方に授業のねらいや、扱いたい本の内容を相談しましたが、蔵書がなく、なかなか本が用意できない状況がありました。そこで、市町村立の図書館を訪れ、レファレンスサービスを利用し、今回扱った本を用意した経緯がありました。今後は、単元の計画の段階で必要な本をそろえることができるように、公立図書館も計画的に活用することで、子どもの学びにつながると考えます。

(3) 音楽科

授業実践⑤ 中学部「思いをのせて 夏のミニコンサート」

1 実践の概要

本実践は、中学部1年生2名、2年生2名、3年生3名で授業を行いました。生徒たちが「きらきら星」を演奏する中で、挿絵や写真を手掛かりにイメージを広げ、楽器の選定や演奏の仕方を自分なりに工夫することをねらいとしました。

単元の実施期間中には、「夏の星座」や「七夕」がテーマの本をブックカートに集め、夏と星空の本コーナーとして設置し、自分のイメージに合う星空の挿絵や写真を選んで、楽譜の一部として使用したり、感じたことを友だちに紹介したりしました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

本学習集団は、「イメージを持って演奏すること」に課題がありました。生徒たちが日常的に学部の図書コーナーや図書館で本を借りることに親しみをもっていたことから、夏の星座や七夕など「きらきら星」に関連した本を扱うことで、より曲のイメージを具体的にしたり、友だち同士でイメージを共有したりすることができると考えました。

(2) 扱った本（図書）について

主題「きらきら星」に関連し、単元の実施期間が夏であることから、夏の星座や七夕などの本の中でも写真や絵が印象的な本を選び、図書コーナーを設置しました。また、虫の声や、花火などの夏に関連した音声教材を収録したiPadも同コーナーに設置し、季節のイメージを広げる手掛かりとなるようにしました。



写真をタッチすると音が再生できる

【使用した図書】

使用図書	選書の理由
花火の図鑑	・花火の写真が多くあり、夏のイメージを持つことができる。
ねがいぼし かなえぼし	・大きな挿絵で、七夕の物語がわかりやすい。
星座と神話	・星座について写真と解説があり、生徒が星空に興味を持つきっかけとなる。
夜空と星の物語	・様々な場面の星空の写真が見開きのページで掲載されている。 ・生徒が好きな星空を選ぶことができる。
うたがみえるきこえるよ	・演奏する音が鮮やかな色の絵としてえがかれており、生徒の演奏のイメージにつながる。

3 教材や支援について

(1) 演奏前にイメージを共有する

授業時には、ブックカートを教室内に移動し、生徒が選んだ本の中から自分のイメージに合う星空を探したり、友だちと選んだ本を見せ合って、お互いのイメージを共有したりするようにしました。



「今の音は北極星みたいな感じ」



「私はこんな星空で演奏したいな」

(2) 星空の写真を楽譜の一部として活用する

生徒たちが選んだ星空をカードサイズに縮小し、演奏ボード上で楽譜と一緒に見られるようにしました。「ドドソソ…」の階名と、「こんな星空にしたい」という演奏のイメージを持てるように一人一人に合わせたものを用意しました。



4 授業の様子

たくさんの本の中から、自分が演奏してみたい星空を探したり、星空の写真を楽譜と合わせて使用したりしていく中で、友だちの演奏を聴いて、「こんな星空かな」と音色からイメージを具体的にしたり、選ぶ楽器の種類や楽器の鳴らし方を変えたりするなど、演奏を工夫する姿が見られるようになりました。



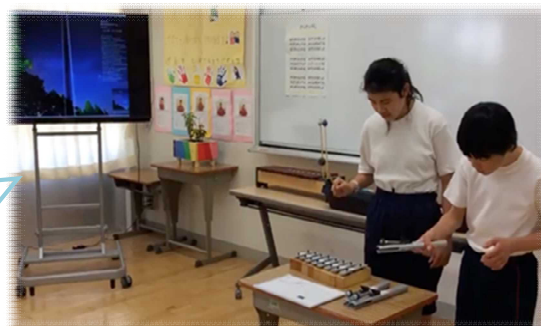
気に入ったイラストを見て
「木琴で演奏したいな」
と楽器を選ぶ



星空の写真集の中の
小さくたくさん並んだ星を見て
「ピアノの高い音で細かく弾きたいな」



ミニコンサート本番
「森の上の静かな星空を
鉄琴で演奏します」



5 実践をふりかえって

音楽科に読書活動を取り入れたことについて、生徒の姿から次のように振り返りました。

- 本の写真や挿絵などを手がかりにすることで、生徒が目に見えない音のイメージを具体的にしたり、音から感じ取った印象を伝え合ったりすることにつながりました。
- 星空の写真集だけでなく、夏や七夕がテーマの絵本、音声教材などを取り入れたことで、主題の「きらきら星」に関連した物語のイメージや季節感を感じながら学習することができました。
- 写真集などのページを部分的に教材として扱うと、見開きページの全体からの印象や前後関係からの印象と異なってしまうことがある（ビジュアルリテラシー）ので、配慮が必要なことがわかりました。

(4) 図画工作科

授業実践⑥ 小学部 「つくって かざろう」

1 実践の概要

本実践は、小学部5年生3名、6年生3名の計6名で授業を行いました。

自分の描きたい絵のイメージを持ち、表現方法を自分で選んで描くことをねらいとしました。児童たちは、気に入った絵本を選び、挿絵や叙述から読み取ったことやイメージしたことを平面作品に表しました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

作品の題材を決定するにあたり、普段から、6名の児童は絵本に興味を持ち、学級に置いてある絵本を開いて見たり、読んだりしている姿から、絵本の読み聞かせや、絵本の内容を題材にして平面作品の制作を行うことで、児童が制作への関心を高めたり、表したいことをイメージしやすくなったりするのではないかと考えました。

(2) 扱った本（図書）について

本単元の前単元において、マーブリングを用いて作品制作を行いました。そこで完成した作品から子どもたちが「海」を連想したことから、本単元では、「海」をテーマにした平面作品を描くことにしました。そこで、以下の観点を基に、附属小の図書館担当職員と打ち合わせ、使用図書を選びました。

- ・海が舞台の絵本や海の生き物が沢山載っている本であること。
- ・絵の輪郭がはっきりしていて、色彩が豊かな挿絵があること。
- ・どんなお話か、何について描かれた絵本であるのか内容が分かりやすいこと。

使用図書	選書の理由
にじいろのさかな	・色彩が豊かなことから、児童が興味や関心を持ちやすく、作品の視覚的なイメージを持つことができる考えたため。
スイミー	・内容が分かりやすく、色々な海の生き物が登場する。 ・色や形に触れている文や言葉が出てくる。
とうさんはタツノオトシゴ	・色彩が豊かであり、色々な種類の生き物が登場し、興味や関心を持ちやすい。

3 教材や支援について

(1) 読み聞かせ

- 授業の始めには読み聞かせを行い、挿絵について問いかけたり、感想を伝え合ったりしました。

(2) 挿絵とリンクさせた材料の選定

- 挿絵の形や色を参考に、枠や型、スタンプ、貼り絵など様々な道具を用意しました。そして、絵本から広げたイメージを基に子どもたちが道具を自分で選んで表現することができるようにしました。
- 挿絵を手掛かりに色や形に着目できるように、「にじいろのさかなには何色がありますか」等の言葉かけを行いました。

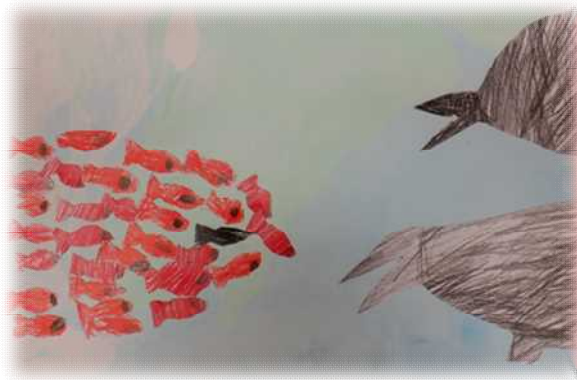


4 授業の様子



5年生のFさんは、読み聞かせの中で「にじいろのさかな」の絵や内容を気に入り、色鉛筆で描くことにしました。表紙にもある、「にじいろのさかな」を描くために「にじいろとはどんな色か」を考え、挿絵を見たり、本文を読んだりしながら、色を選んだり、配色を工夫したりして表現していました。

同じく5年生のGさんは、「にじいろのさかな」を表現するために、折り紙やシールを用いました。にじいろという言葉から自分なりの「にじいろ」を考え、色を選んだり、重ねたりして、作品を完成させました。



6年生のHさんは、自分の気に入った『スイミー』を表現するために、挿絵を手掛かりに自ら配置を考えて魚を貼って作品を作っていました。どこに配置しようか悩んだ際には、絵本を見返すことで、大きな魚に見えるように魚を貼り足したり、貼り直したりする姿が見られました。作品を展示した際には、見に来た人に「このスイミーの絵すごい」と言われ、嬉しそうにしていました。

5 実践をふりかえって

実践をとおして、次のようなことを振り返りました。

- 附属小の図書館担当職員の方と絵本の選定を行ったことで、挿絵について、色合いや多様な表現のできるものを選ぶことができ、より教材として有効な本を選ぶことができました。
- 単元実施前は、少ない色で表現する児童もいましたが、絵本を取り入れ、本文だけでなく、児童が絵本の挿絵に注目できるようにすることで、本単元での制作では、より色彩豊かな絵を描く姿が見られたり、構図を考えたりして絵を描く姿が見られ、良さを実感することができました。
- 授業のはじめに、読み聞かせを行ったことで、挿絵や本文から、対象の具体的なイメージをもって制作を行うことができました。
- 今後は、指導計画上で絵本を活用する場面や自由に発想する場面を整理し、子どもの自由な表現をより引き出せるようにしたいと考えました。

(4) 美術科

授業実践⑦ 中学部「あったらいいな こんなお店」

1 実践の概要

本実践は、中学部1年生2名、2年生3名、3年生2名の計7名で授業を行いました。生徒が、自分の店を作るため、店の商品として「あったらいいな」をテーマに粘土で造形作品作りをしました。制作する際に、「あったらいいな」とイメージを持ったり、広げたりすることができるように絵本や図鑑を手掛かりにすることにしました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

本学習集団は、「イメージを広げて形に表現すること」に課題がありました。そこで、生徒たちがいろいろな店や商店街のイメージを持ったり、制作の発想のきっかけを得たりするために、図書を活用できると考えました。授業では、本を生徒の発想の手掛かりとしつつも、「本で見た物だけをそのまま作る」のように発想の制限とならないように、本を使用するタイミングに配慮するようにしました。

(2) 扱った本(図書)について

単元の開始前に、生徒一人一人の興味や関心のある物について、教師間で情報交換をしました。そこから、生徒が作ってみたいくなる食べ物や動植物などが登場する絵本や、店がテーマの本を選定し、ブックカートに配置したり、教室に掲示したりするようにしました。



【使用した図書】

使用した図書	選書の理由
ノラネコぐんだんアイスのに	• わかりやすい内容で、色々な味のアイスが描かれている。
ぎょうれつのできるケーキ屋さん	• 生徒に人気のあるシリーズである。 • 色々な種類のケーキや作り方などが描かれている。
からすのパンやさん	• オリジナルのパンがたくさん描かれており、生徒の発想のきっかけとなる。
バムとケロのおかいもの	• 市場で買い物をする場面が描かれており、色々な種類の店のイメージを持つことができる。
なぞなぞのみせ	• 身近な商店街の様子や、売っている商品が細かく

	描かれており、商店街のイメージをより具体的にすることができる。
回転寿司おもしろ大百科	<ul style="list-style-type: none"> • 寿司や魚について詳しく描かれている。 • 作りたいもののイメージを持つことができる。

3 教材や支援について

- 教室に図書資料（コピー）を掲示

単元や授業の導入で、本を読み、作ってみたい物を見つける時間を設定し、気に入ったページを発想の手掛かりとしながら制作できるよう、教室に掲示しました。



生徒がこれまでの経験も活かしながら制作に取り組めるよう、学校周辺の商店街の写真も資料として一緒に掲示しました。

4 授業の様子

店や商店街のイメージを生徒同士が共有し、「あったらいいな」と思う物を考えながら粘土でオリジナルの作品を作りました。



「ぎょうれつのできるケーキ屋さん」からデザートの発想を得たIさんは、「イチゴ味の綿菓子をつくりたいな」と言いながら、粘土にピンクの色をつけ、制作する様子が見られました。



食べ物の写真を参考にしたJさんは、「どの道具で模様を付けようかな」と、表したい対象に近づくように、試しながら道具を選び、粘土で作ったクッキーや餃子に模様を付け、より本物に忠実に作ろうとする姿が見られました。



単元の後半には、それぞれが作った作品をお店に並べ、商店街に見立てて鑑賞しました。生徒は、「(僕の作品を見て欲しいから)ここ!」と目立つように作品を置いたり、「わたしはギョウザ屋さん。いろいろな味があるよ」と絵本の中の場面や人物になりきって作品について紹介したりする姿が見られました。

5 実践をふりかえって

美術科の授業に読書活動を取り入れたことについて、生徒の姿から次のように振り返りました。

- 捉えた生徒の実態を基に選書をしたことで、作りたい物の発想を得ることが難しかった生徒も、興味のある物から制作に取り組むことができました。
- 作りたい物の色や形など、特徴を本から捉えることで、使用する材料の色を選んだり、作りたい物のイメージに合わせて道具を変えたりするようになり、工夫して制作することができました。
- 本を見ることで発想が制限されないよう、提示する本の内容やタイミングには配慮が必要であると考えました。

(4) 美術科

授業実践⑧

高等部 「こだわってつくろう」

1 実践の概要

本実践は、高等部1年生1名、2年生3名、3年生3名の計7名で授業を行いました。

形や色合いなど、細部にこだわって立体作品を作ることをねらいに、紙粘土による制作を行いました。生徒が思い思いに作りたい物を決める中で、形や色合いの参考にするために、図鑑や絵本などを活用することにしました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

生徒の実態として、作りたい物を思い浮かべたり、決めたりできる一方で、形の大きさやバランス、色使いなどに課題がある生徒が多くいました。そこで、図鑑や絵本の挿絵等を参考にして、形や色合いを確かめながら制作を行うことで、生徒が表したいものの特徴を自分で捉えて、表現を工夫することにつながるのではないかと考えました。

また、形や色合いだけでなく、細部の凹凸や模様などを、図鑑を参考にしながら捉えるようにすることで、道具を使って模様をつけたり、絵筆の太さや動かし方を変えたりする姿も引き出すことができるのではないかと考えました。

(2) 扱った本(図書)について

7名の生徒はみな、自分で決めたモチーフについて細部までとらえようとし、写真や細密描写されたイラストが出てくる図鑑を参考に、それぞれが自分で考えて選書しました。

3 教材や支援について

単元のはじめは、学校の図書館を訪れ、図鑑や本を読みながら、自分の作りたい対象を探しました。そして、自分たちの選んだ「魚」や「恐竜」などの図鑑を見て気付いたことやとらえたこと(特徴的な部分や色について)をワークシートに書き留め、制作時の手掛かりとなるようにしました。また、参考にした図鑑の該当ページを拡大コピーし、制作中も手元に置くことができるようにしました。こうすることで、より細部に注目することができるようになり、制作の大きな助けとなりました。



対象の形や色の特徴を書く



細部の形を見て作る

4 授業の様子

3年生のKさんは、図鑑を手掛かりにしながら、粘土で形を作っていました。図鑑を拡大コピーした紙の上に粘土を置いて大きさや形のバランスを確かめることで、迫力やリアリティのある古代の海洋生物を作ることができました。できあがった作品にはKさんも満足そうにする様子が見られました。



同じく3年生のLさんは、当初、単色で塗り進める姿がありました。しかし、図鑑と見比べながら制作したことで、図鑑と作品の色の違いに気付き、試し塗りをしたり、絵の具の分量を変えたりして、色が近くなるように試行錯誤する姿が見られるようになりました。

2年生のMさんは、図鑑をよく見て、恐竜の背びれに筋が見えることや、背中に斑点のような模様があることに気づき、友だちの制作の様子を参考に爪楊枝を使って筋を入れたり、薄くのばした紙粘土を貼り付けたりするなどの表現を工夫する姿が見られました。



5 実践をふりかえって

実践をとおして、次のようなことを振り返りました。

- 図鑑を用いることで、個々に持つ表したいイメージがより具体的になり、図鑑を参考にしながら、形状や色などを忠実に再現しようとする姿につながりました。
- 本単元実施後の別の美術科の授業で、自然素材を版として模様を作る授業をしました。2年生のNさんは「沖縄の海」をテーマに版の制作をはじめ、ある程度制作が進んできたところで、自ら図鑑や旅行雑誌で、沖縄の海に生存する魚などの生き物について調べ、葉っぱなどの自然素材を加工して版を作ったり、色合いを工夫して多色刷りをしたりする姿が見られました。こうした姿から、本や図鑑が、イメージや考えを具現化するためのツールになることを生徒が学習し、般化した姿として現れたと考察しました。
- 高校生ということもあり、ある程度のイメージを持っていたところに図鑑を用いたので、制作の過程で細部を工夫する姿につながりましたが、発達段階や個々の実態によっては、イメージや表現を制限することにもつながることから、指導計画上、どのようなタイミングで、どの程度用いるとよいか、今後の実践を行っていく上での配慮事項になると考察しました。



(5) 保健体育科

授業実践⑨ 高等部 「バスケットボール」

「オリンピックについて調べよう」

1 実践の概要

本実践は、高等部1年生1名、2年生3名、3年生3名の計7名で授業を行いました。

体育大会に向けたバスケットボールの練習を行う中で、種目への興味や関心を高めたり、基本的な技術を体得したりするための手立ての1つとして本を用いることにしました。また、保健体育の体育理論の学習においても、スポーツへの興味や関心、ルールや競技についての理解を深めるために、2020年の東京オリンピックの開幕を控えていたことから、オリンピックやスポーツについて調べる学習活動を展開しました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

生徒の興味や関心を高め、幅広くスポーツや競技について知ってもらいたいという教師の願いから、視覚的な情報も多い、図鑑や関連する本を用いた学習活動を展開しようと考えました。タブレット端末等によるインターネット検索も考えましたが、インターネット検索をするためには、調べたい事柄(検索ワード)を1つに絞る必要があること、生徒が必要な情報にたどりつくまでに時間がかかること等からスポーツについて幅広く知ってもらいたいという意図に沿わないと考えました。図書であれば、1つのページから複数の情報を得たり、表紙等から多様なスポーツに興味を持ったりすることができると考え、図書館を利用することとしました。

(2) 扱った本(図書)について

図書館担当職員と選書を行い、ブックカートにまとめて借りました。借りた後は、教室のあるフロアの廊下に置いたり、授業の際に教室内に入れたりしました。

使用図書	選書の理由
スポーツなんでも辞典バスケットボール	• 表紙の写真やイラストからスポーツの何について書かれた本かが分かる。 (種類、ルール、オリンピック…等) • 幅広い情報(多様なスポーツの種類や、細かいルール等)が得られる。
スポーツルール バスケットボール	
みんなのスポーツ大百科	
オリンピックパラリンピック大百科	
スポーツ年鑑 2019	

3 教材や支援について

バスケットボールの授業では、授業の前後で本を開いて、種目や技能について紹介するようにしました。また、体育館では、本のページを基に、本時で取り組む技能について示したり、シュートフォームなどを撮影して、プロ選手の写真と比べたりしました。

オリンピックについて調べた際には、図書館担当職員の方にコーナーやどんな内容の本があるか紹介してもらったようにしました。

4 授業の様子

バスケットボールの授業では、図鑑を使って技能を調べたり、写真の比較をしたりすることで、1年生の〇さんは、手足の動かし方や空中姿勢などを捉え、ドリブルの後、ボールを保持しながらジャンプし、レイアップシュートを決めることができるようになりました。



オリンピックについての調べ学習では、オリンピックの歴史について調べる生徒もいれば、種目やメダルを獲得した日本人選手について調べた生徒もあり、調べてわかったことを友だちにその場で伝えたり、ワークシートに書き留め、紹介したりすることができました。



調べたことをワークシートに書き留める



分かったことを友だちに伝える

5 実践をふりかえって

実践をとおして、次のようなことを振り返りました。

- 本を用いることで、自分の好きなスポーツのページだけでなく、他のスポーツのページも読んだり、分かったことを友だちに伝えたりする生徒の姿から、興味や関心の広がりを見て取ることができました。普段はインターネットで検索することを好んだり、図書館を利用することが少なかったりする生徒も、図書館担当職員のレファレンスを受けて、自分から本を選んで調べる姿が見られました。
- 以前よりバスケットボールへの関心の高かった3年生のPさんは、2つの実践をきっかけに、テレビでバスケットボールを観戦するようになったり、他国のバスケットボールのプロ選手について調べ、友だちや教師に伝えたりする姿が見られるようになりました。こうした姿から、本から情報を得ることで、興味や関心を抱き、余暇や生活場面につながることを確かめることができました。
- 調べ学習をする際の図書の有効性を教師が再認識した一方で、本から必要な情報を得る際には、視覚情報に加えて文字情報からも情報を得ることができるように、国語科の学習との関連を図ることや、図書を教材化して示すことの必要性を感じました。生徒の興味や関心を高めるだけでなく、学習に有効に取り入れていくための工夫や方法をもっと考えていくことが大切であると振り返りました。

(6) 生活単元学習

授業実践⑩ 小学部 『ぐりとぐら』のげきをしよう

1 実践の概要

本実践は、小学部3年生3名、4年生3名の計6名で授業を行いました。

本を読んだり、読み聞かせを聞いたりしたことを基に、動作化したり、台詞を話したりして劇の発表をすることをねらいとした生活単元学習を行いました。

絵本『ぐりとぐら』を題材として、物語の様子を演じた劇を行い、小学部の学習発表会で発表しました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

6名の児童は絵本に興味を持ち、休み時間に学級文庫の絵本を読んだり、友だちに読み聞かせをしたりしています。このような点から、劇を行う学習において、絵本の読み聞かせから始めて、実際に演じることで、楽しみながら劇を演じることができると考えました。また、絵本の挿絵を見て登場人物の動きを真似たり、絵本の文章から登場人物の台詞を話したりして絵本を動作化することで、役を演じる活動に意欲的に取り組むことができると考えました。

(2) 扱った本（図書）について

児童の読書の様子から、実態に合わせて使用図書の選書をしました。

使用図書	選書の理由
ぐりとぐら	<ul style="list-style-type: none">物を運ぶ、調理をするなど、登場人物の動きを表した場面が豊富にあり、動作化がしやすい。平易な言葉遣いで表現されているため、台詞を話しやすい。
しろくまちゃんのほっとけーき	<ul style="list-style-type: none">ホットケーキが完成するまでの過程や展開が視覚的にも捉えやすい。擬音語や擬態語がよく出てくる。

3 教材や支援について

(1) 読み聞かせと動作化

- ・児童が関心を高めることができるように、単元の導入において教師が絵本の読み聞かせをしました。また、絵本に出てきた道具を使って動作化しました。



(2) 劇の舞台セットと台詞カード

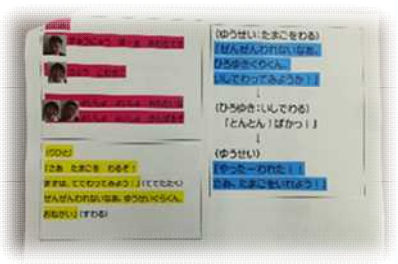
- ・児童が物語の世界に入ったり、児童の演じることへの意欲を高めたりすることができるように、教師は、絵本に出てくる大きな卵やフライパン、焚き火などを挿絵に似せて制作しました。また、役割分担やイラストなどを付け加えた台詞カードを用意しました。



劇の舞台



準備した道具



台詞カード

4 授業の様子

読み聞かせや劇の練習の時間では、台詞カードを読んだり、台詞に合わせて絵本を動作化して演じたりしました。劇を練習する活動の中で、絵本を見て場面を確かめながら台詞を話し始めたり、道具の準備や調理場面の動作をしたりする姿が見られました。





4年生のQ君は、劇の練習の際に、絵本をよく見て調理の場面の動作化をしました。ボウルに生地を入れて混ぜた後に、生地をフライパンに入れて焼くことができました。絵本を繰り返し指さして、自分が劇で演じる動作を確かめる姿が見られました。

学習発表会では、『ぐりとぐら』の劇を発表しました。練習の成果を発揮し、物語に沿って卵や砂糖、フライパン、ボウルなどを運んだり、ボウルに材料を入れて混ぜたり、フライパンに生地を入れて焼いたりして劇を演じることができました。



4年生のR君は、台詞カードを読んで台詞を発表したり、砂糖や牛乳などの材料を準備したりしました。練習の際に、教師の読み聞かせを思い出しながら話す速度を考えたり、登場人物の表情や言葉から抑揚をつけたりして話す練習をしました。発表会でも、聞き取りやすい声でゆっくりと話したり、臨場感のある声で話したりする姿が見られました。

5 実践をふりかえって

実践をとおした児童の姿や変容から、次のようなことを振り返りました。

- 絵本を基に劇を演じたことで、場面の様子をイメージして、動作化がしやすくなったと思います。絵本の登場人物が使っているものと同じような大きさの道具や材料を制作したことで、登場人物になったつもりで演じることができました。
- 絵本の台詞と対応した台詞カードを用意したことで、台詞を話す際に、絵本を読んで順番を確認したり、必要な材料や調理道具を用意したりすることができたと考えます。児童が台詞カードを見て、1人で劇を進めることにつながりました。
- 家庭で調理のお手伝いをしている児童が多かったので、児童にとって、調理を扱った絵本は、動作化をしやすかったと思います。また、こうした児童の意識を捉えて本を選んだり、読書活動を工夫したりしたことで、調理のイメージを明確に捉えることができ、学習活動や個々のねらいの達成につながったと考えます。

(6) 生活単元学習

授業実践⑪ 小学部「しらべて みつけて つくってみよう」

1 実践の概要

本実践は、小学部3年生3名、4年生3名の計6名で授業を行いました。前単元『ぐりとぐら』のげきをしよう」(授業実践⑩P32～35)において、調理に対する児童の意欲が高まってきたので、実際に調理を行うこととしました。

本を読んで必要なことを調べ、調理をすることをねらいとした生活単元学習を行いました。学級や図書館で本を探し、本を読んで調理方法を調べながら、ホットケーキの調理に取り組みました。材料や調理道具、調理の動画などを本に付け加えた自作のデジタル教材も活用しました。

2 実践研究にかかわって

(1) 読書活動を取り入れた目的

『ぐりとぐら』のげきをしよう」の実践において、学習の中に絵本を取り入れることで、意欲的に取り組む姿が見られたことから、本実践においても、絵本を用いることにしました。そうすることで、挿絵や文から調理に使う道具や調理工程を楽しみながら調べたり、調理に対する意欲を高めたりすることができると思いました。

(2) 扱った本(図書)について

児童の読書の様子などをもとにして、図書館担当職員と使用図書を選書しました。(授業実践⑩で使用した2冊の絵本は継続して使用しました。)

使用図書	選書の理由
ほっとほっと ホットケーキ	・必要な材料や調理道具の挿絵がある。
クラブ活動アイデアブック4 料理クラブ	・挿絵入りのレシピ集なので、調理手順が分かりやすい。 ・文が多いので、文を読んで調べることができる児童に適している。
かがみのえほん きょうのおやつは	・仕掛け絵本なので、楽しみながら調理手順を確認できる。

3 教材や支援について

(1) 読み聞かせと本探し

- ・児童が調理への興味や関心を高められるように、単元の導入において、教師が選んだ本を読み聞かせしたり、調理に関連する本を学級文庫や図書館で探し取りました。



(2) 自作の教材の作成

- ・児童の「読むこと」に関わる実態を実態調査表をもとにとらえ、とらえた実態に応じて、材料や調理道具を絵本に付け加えたり、レシピ本の一部に調理の動画等を加えてデジタル教材化し、タブレット端末に入れて提示したりしました。



4 授業の様子

単元の前半は、読み聞かせや本探し、本を読んでレシピについて調べる学習を行いました。読み聞かせや本を読んで調理工程や調理道具について調べる活動の中で、材料や調理道具の挿絵を指さしたり、調理の様子について文を読んで確かめたりする姿が見られました。最後に、本を読んで必要な材料や調理道具を調べ、個々にワークシートにまとめました。



4年生のS君は、図書館で探した本を読んで必要な材料や調理道具を調べました。材料が一覧で示されているページを見つけて、「ボウルとお玉とヘラと…」などと、1つ1つの調理器具を読み上げました。文と挿絵を順番に指さして確かめることもできました。



単元の後半は、本やデジタル教材化した本の一部を見ながら、必要な材料や調理道具を用意したり、調理方法を確認したりしながら、ホットケーキを作りました。調理で手が止まった際に、教師に質問するのではなく、本やデジタル教材を見て、自分で確かめる姿が見られました。



絵本を見て必要な材料を選ぶ



デジタル教材を見て調理工程を確認する



絵本をもとに目標を話す



絵本で焼き方の手順を確認する



3年生のTさんは、2人組で調理を行いました。授業の導入で、「ボウルを押さえること」をがんばることに決めました。調理の際には、絵本の主人公が、生地を混ぜる工程で「だれかぼーるを おさえてて」という台詞を読んで、ボウルを押さえる工程であることに気づき、友だちが生地を混ぜる時にしっかりとボウルを持って押さえることができました。

5 実践をふりかえって

実践をとおした児童の姿や変容から、次のようなことを考察しました。

- 本やデジタル教材化した本の一部を活用したことで、次は何をすればよいのか自分から調べる姿が見られました。単元の導入だけでなく、まとめでも調理工程を振り返ったり、頑張ったことを確かめたりする場面等、単元をとおして本を活用し続けたことで、本で読んだり調べたりして、分からないことを解決する姿が見られました。
- 校外学習で公立図書館に行った際には、児童が自分で質問し、図書館司書の方に助言をいただきながら、ホットケーキや調理に関連する本を探ることができました。本を探す力が高まり、図書館担当職員や図書館司書にどのように質問すればよいのか学ぶ機会になったと思います。
- 本の挿絵や文を手がかりに、「ぐるぐる しゃかしゃか」「くるん」等と、児童が自ら絵本のオノマトペを声に出しながら調理に取り組む姿が見られました。教師が選書する際、挿絵やオノマトペがある本を選ぶことで、児童が内容を理解する手がかりとすることができました。



公立図書館で図書館司書の方に質問しながら、ホットケーキや調理に関連する本を探す

4

授業実践
以外の取組



読書環境について

昨年度から継続して、ブックカートを活用した読書コーナーを各フロアに用意しました。季節や学校行事に関連した図書や児童生徒からリクエストのあった本などを設置しました。

また、県立図書館からの無償譲渡していただいた本や、授業で使用した本なども並べ、定期的に入れ替えるようにしました。



教師が本を紹介するコメントやおすすめポイントを添えて設置することで、立ち読みをする姿や、ここで手に取った本をきっかけに校内の図書館に借りに行く姿、読んだ本を話題に友だちと話す姿も見られました。



ブックカートの活用だけでなく、授業で作成した作品や使用した教具も掲示、展示するようにしました。



こうすることで、単元が終了した後も、単元中に扱った本への関心が続き、休み時間に本を読んで楽しむ姿にもつながりました。また、こうした掲示物を介して、附属小学校の児童との間接的な交流ともなり、有効性を感じました。





















先進校の視察においても、こうした読書環境の充実に取り組んでいました。それは図書館の中に限らず、児童生徒が行き来する廊下やドアなどにも掲示物や企画などが充実していました。

今後は、読書環境の更なる充実を目指していく中で、ブックカートや学級文庫の更なる充実を図っていきたいと考えています。また、児童生徒が所属する図書委員会とも連携し、本の入れ替えを盛んに行ったり、教員のおすすめ本の企画を行ったりするなど、工夫をしていきたいと考えています。また、「実態に応じた読書」として、雑誌などを配架している学校もありました。本校でも、児童生徒の実態を踏まえた図書を取り入れることで、小学部から高等部までの児童生徒が、図書に興味や関心を持ち、読書する姿へとつなげていきたいと思います。














「読書カード」について

今年度より、児童生徒がどんな種類の本をどのくらい読んでいるか、読み方や楽しみ方として、挿絵を見ているのか、文や言葉に着目しているか等、児童生徒の読書実態について捉え、情報を蓄積できるように、「読書カード」を作成し、運用を始めました。

「読書カード」小学部用

 ①	 ②	 ③	 ④	 ⑤	 ⑥
 ④	 ⑤	 ⑥	 ⑦	 ⑧	 ⑨
 ⑦	 ⑧	 ⑨	 ⑩	 ⑪	 ⑫
【ご家庭からのコメント】…ご家庭での読書の様子などをお聞かせ下さい			ほんだなが いっぱいに なったね！ がんばりました！  		

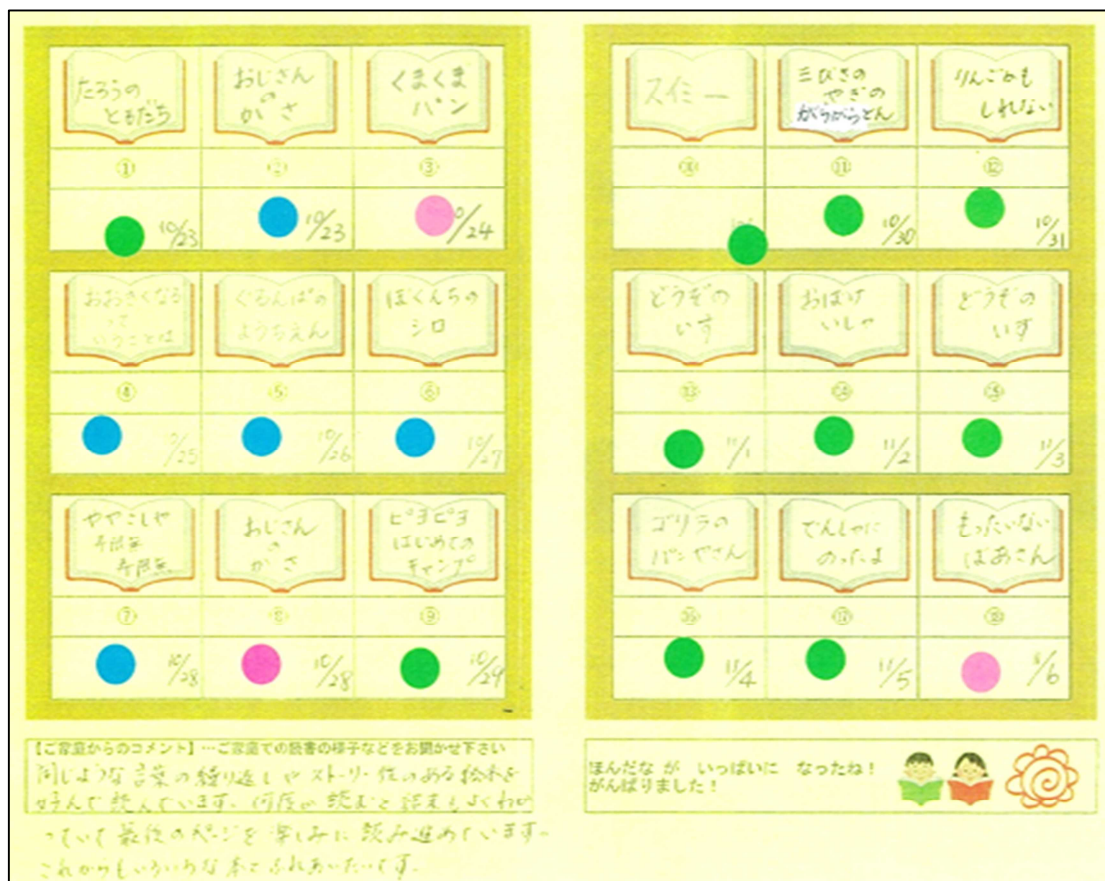
「読書カード」中学部・高等部用

本を借りたらタイトルを記録しましょう。 いろいろな本を読んでみましょう。 	⑩ 
⑪ 	⑪ 
⑫ 	⑫ 
⑬ 	⑬ 
⑭ 	⑭ 
⑮ 	⑮ 
⑯ 	⑯ 
⑰ 	⑰ 
⑱ 	⑱ 
⑲ 	⑲ 
⑳ 	⑳ 
	20冊です！たくさんの本を読んでいますね！すばらしい！ 

カードには、読んだ本の名前を記録したり、感想を書き込んだりできる欄を設けました。また、小学部の児童には達成感を味わうこともできるよう、シールを貼る欄を加えました。

こうした情報の記入は、学校で本を読んだ場合には教員が、家庭で本を読んだ場合には保護者が記入するようにしました。こうすることで、学校と家庭とで読書の様子を共有することができ、読書を介した情報交換のツールにもなりました。

実際のカードについて紹介します。



これは、小学部6年生の児童のカードです。

読書カードの運用を始めると、保護者から、家庭で本を読む回数や、図書館の利用が増えたと報告がありました。また、カードには、「同じような言葉の繰り返しや、ストーリー性のある絵本を好んで読んでいます。何度か読むと結末もよくわかっていて、最後のページを楽しみに読み進めています。これからもいろいろな本とふれあいたいです」との感想があり、学校と家庭とで効果を実感しています。

また、こうした実態の把握により、授業で使用する図書を選ぶ際に参考にすることもできるようになってきました。

今後は、運用を続けつつ、形式ややりとりの仕方を見直したり、普段の授業とも関連付けたりできるような運用の方法についても明らかにしていきたいと考えています。

アンケート調査とその考察

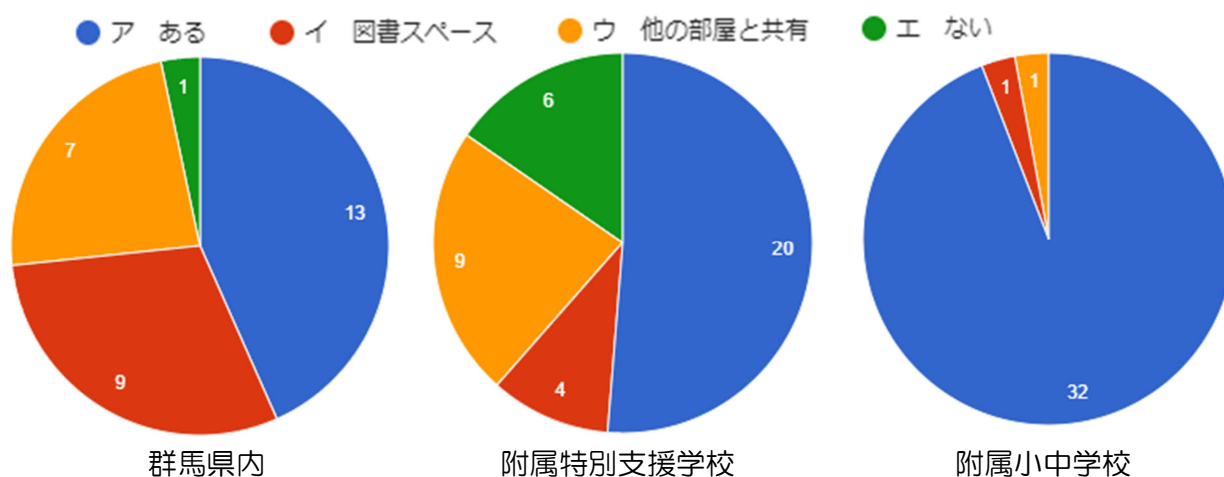
本校での実践研究の充実につなげることを目的に、群馬県内の特別支援学校、全国の国立大学附属特別支援学校、関東近県の教育大学附属小中学校、122校にご協力をいただき、図書館の利活用や読書活動の現状について、アンケート調査を実施しました。

今日まで103校からの回答を得られたので、その結果と考察について、以下に示します。

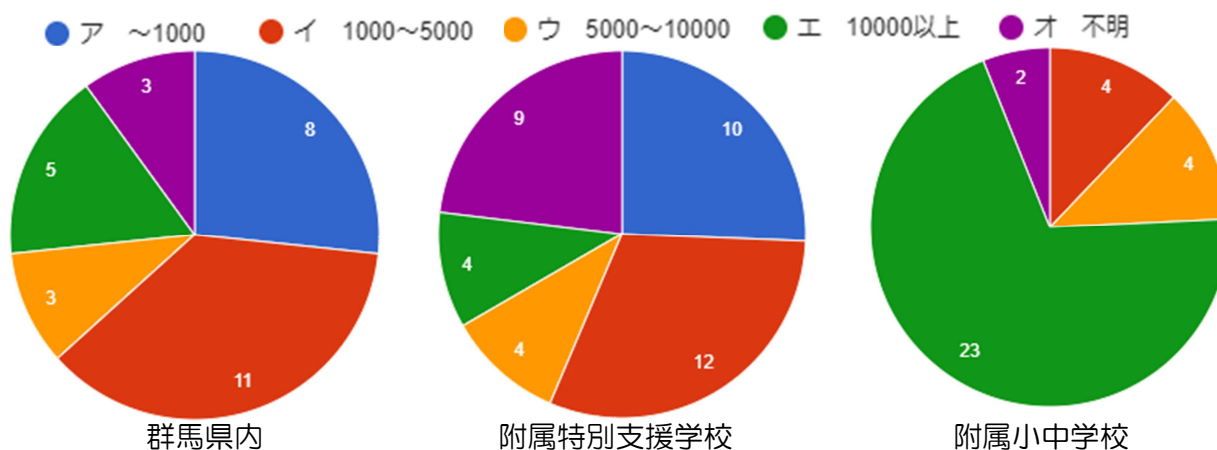
(項目については一部簡略化して示しています。自由記述については省略しています)

※103校の内訳	群馬県内の特別支援学校	全33校中30校
	国立大学附属特別支援学校	全52校中39校
	関東近県教育大学附属小中学校	全37校中34校

1 図書館はありますか

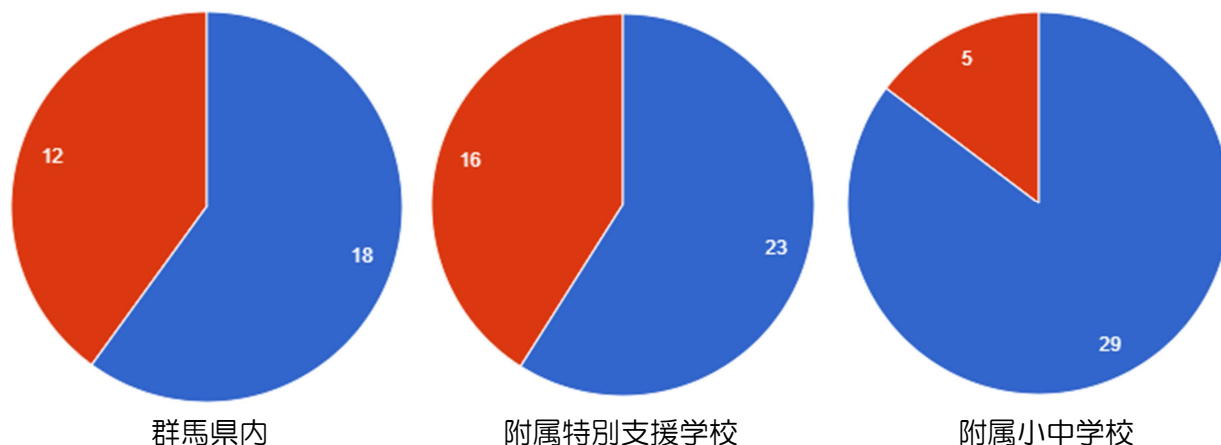


2 蔵書数について(冊数)



図書館の有無について、附属小中学校ではほぼ全ての学校に図書館があるのに対し、特別支援学校では、ない学校も少なくありませんでした。また、蔵書数についても、大きな違いがありました。各学校の設備面や規模等にもよると思いますが、特別支援学校では、図書館があっても蔵書数は少ない学校もありました。平均冊数も、群馬県内が2200冊、附属特別支援学校が2694冊、附属小中学校が13357冊と大きな違いがありました。

3 学校司書・司書教諭の有無

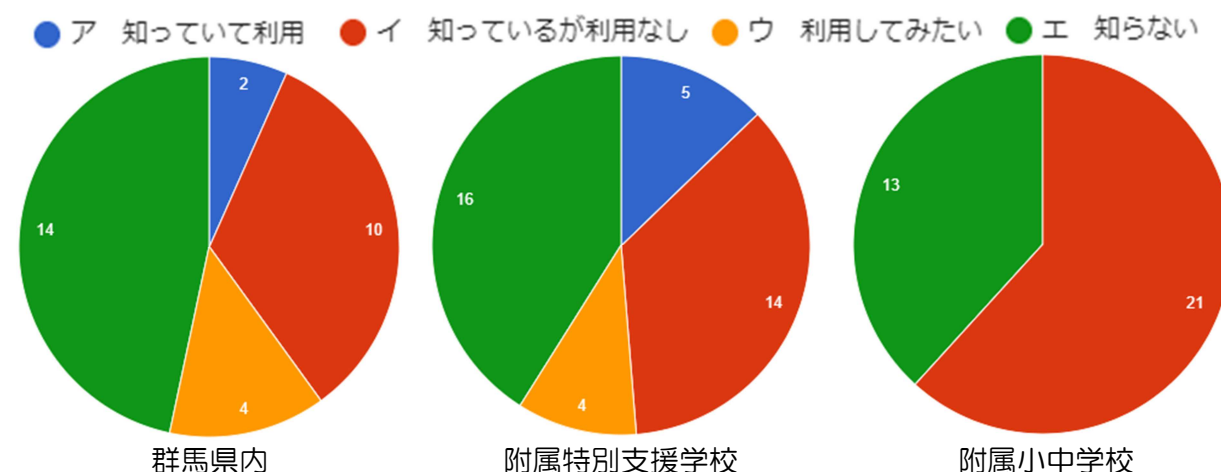


図書館司書や司書教諭の配置状況についても大きな違いがわかりました。附属小中学校では、約85%に対し、特別支援学校では60%前後でした。

図書館の利活用や読書活動の具体的な取組についての自由記述では、利用を毎日している学校が多く、少なくとも週1～2回は図書館を訪れたり、本を読んだりしていることがわかりました。実践とすると、特別支援学校では、読み聞かせや調べ学習が多く、附属小中学校では、ビブリオバトルやアニメーションに取り組んだり、美術科や音楽科、保健体育科の授業においても利活用をしたりしている現状を確認することができました。特別支援学校における、図書館の利用は多いものの、教科の学習での利活用までは至っていない現状から、本校での実践内容や取組の意義を再確認しました。

最後に、マルチメディア図書「DAISY」についても調査しました。

4 DAISY 図書について



DAISY 図書について、知っていたり利用したりしたことがある、もしくは利用してみたいと回答した学校は半数以上ありましたが、「知らない」と回答した学校も4割近く見られました。こうした点から、今後、本校が実践のモデルを示したり、DAISY 図書をはじめとし、タブレット端末を活用したデジタル教材や自作の教材などについても広く発信したりしていく必要性を感じました。

5 実践を振り返って

1 実践研究2年次の成果

実践をとおして次のような成果を確かめることができました。

- (1) 各教科の授業において、図書館の利活用や読書活動を取り入れること
 - ・児童生徒の実態や授業のねらいを踏まえた上で、授業に図書や読書活動を支援や学習活動の一部として取り入れることで、自分から学習活動に取り組む、学習課題に応じて、試行したり選んだりする、友だちと意見や考えを伝え合うなど、主体的に学ぶ児童生徒の姿を引き出すことができた。
 - ・図書の活用により、写真や説明文からより詳しく場面を捉えたり、感じたことを言葉や作品に表したりする姿が見られ、学びに効果があることを確かめた。

- (2) 読書環境の充実を図ること
 - ・ブックカートや読書コーナーを各フロアに用意したことにより、図書への興味や関心が高まり、自分から本を手にとって読む姿が増えた。
 - ・身近にあることで、図書を用いて、知りたい事柄や情報を調べる姿も見られるようになった。

- (3) 「読書カード」の活用により、児童生徒の読書実態を捉えること
 - ・児童生徒が読んでいる本の種類や冊数の確認や情報の蓄積がより手軽に行えるようになった。
 - ・児童生徒の好みや読書の傾向を確かめることができ、授業などで図書を選書する際に参考になった。
 - ・図書館を利用する回数が増えたり、保護者と児童生徒の変化を実感したり共有したりするツールにもなっている。

- (4) アンケート調査による、特別支援学校等における、図書館の利活用の状況や読書活動についての現状を捉えること
 - ・特別支援学校における現状の一端を知ること、本校で行った実践が特別支援学校における、図書館の利活用や読書活動を取り入れた実践のモデルとなり得ることを確かめることができた。

今年度の大きな成果として、算数科や音楽科、図画工作・美術科など、多様な教科の学習において、図書館の利活用や読書活動を取り入れた実践を行うことができました。そして、主体的に活動に取り組む児童生徒の姿から、図書館の利活用や読書活動を取り入れることによる効果があることを確かめることができました。

また、昨年度の取組内容を学校全体で共有し、授業実践について積極的に取り組んでいく中で、本校の教員からも、昨年度の取組から、図書館担当職員との連携の仕方や相談する内容について明らかになったため、「昨年よりも授業に取り入れやすくなった」という声や、「(子どもたちの姿から)取り入れると効果があるので、もっと(図書館を)利用したい」などの声が挙がり、教員の所感からも、図書館の利活用や読書活動を取り入れることの良さを確かめることができました。

読書環境の充実や、「読書カード」の作成と運用も、児童生徒の日常的な読書や図書とのかかわりにおいて、効果を感じることができました。

2 課題について

一方で、こうした実践を振り返る中で、次のような課題も明らかになりました。

- 読書が身近なものとなったり、余暇活動の1つとして定着したりできるようにしていくこと
- マルチメディア図書や図書教材の活用を図ること
- 公立図書館との連携を図ること

3 3年次に向けて

3年次は、今年度の成果として確かめた、読書環境や読書カードの取組を継続しながら、「実態に応じた読書」として、読書が余暇活動の1つになったり、より実態に即した学習に効果を発揮したりできるようにしていきたいと考えています。特に、発達段階や児童生徒の実態を踏まえて選書した図書についてまとめ、一覧化することで、いつでも参考にできるようにしたり、マルチメディア図書を含めたデジタル教材、自作の教材を取り入れたりして、より授業実践の充実を図っていきたいと考えています。

また、昨年度から、授業実践を中心に、図書館の利活用を計画的に行うために、「学校図書館利用計画」の作成にも取り組み始めました。今年度は、本校での教育課程の改訂に伴い、この利用計画の見直しを図り、新たに作成をしました。3年次は、この利用計画をベースに更なる実践を積み重ねていきたいと考えています。そして、今年度取り組みながらも、十分でなかった公立図書館との連携について、図書を計画的に借り受けたり、教職員向けの研修会を行ったりすることにも取り組んでいき、児童生徒のよりよい学びにつながるような実践を行っていきたいと考えています。



あとがき

2年次となる本実践研究の取組を進めていくにあたり、昨年度に引き続き、新潟大学教育学部 足立幸子 准教授、群馬大学教育学部 河内昭浩 准教授に多大なるご指導をいただきました。

また、先進校の視察では、鳥取大学教育学部附属特別支援学校、鳥取県立図書館、東京学芸大学附属特別支援学校、東京都立鹿本学園の関係者の皆様にご協力をいただき、たいへん参考になりました。

これら多くの方々のご指導ご助言があり、ここに2年次の実践をまとめることができました。心より感謝申し上げます。

群馬大学教育学部附属特別支援学校 副校長 須田 雅人

令和元年度 実践報告 2年次
特別支援学校における教科等の学習への図書館機能の活用と読書活動の充実に関する研究

発行日 令和2年3月26日

編集責任者 須田 雅人

発行者 藤森 健太郎

発行所 群馬大学教育学部附属特別支援学校

前橋市若宮町二丁目8番1号

TEL:027-231-1384

印刷 上武印刷株式会社

TEL:027-352-7445